

(技術名) ニガウリのハウス促成栽培用品種候補「研交6号」							
(要約) 「研交6号」は、冬春期のハウス促成栽培において、普及品種「汐風」と比較して果実突起の尖りが丸みを帯び、果皮色は濃緑である。収量は同等であり、L品及び2L品の割合が大きい。							
農業研究センター 野菜花き班					連絡先	098-840-8506	
部会名	野菜・花き	専門	育種	対象	ニガウリ	分類	普及
普及対象地域	沖縄県全域						

[背景・ねらい]

1995年に育成された「汐風」は、冬春期のハウス促成栽培において高い生産力を持つ本県の主力品種であるが、低温期に果実の突起が鋭くなるため、収穫、梱包作業の際に傷みが生じやすい。また果皮色も淡い。そこで「汐風」よりも果実突起が丸く、果皮色が濃緑な品種を育成する。

[成果の内容・特徴]

1. 雌花節率は、「汐風」と同等である(表1)。
2. 果実突起は、「汐風」と比較して丸みを帯びている(表2、図1、図2)。
3. 果皮色は、「汐風」と比較して濃緑である(表2、図1、図2)。
4. 総収量は、「汐風」と比較して同等であり、L品及び2L品の割合は高い傾向にある(表3)。
5. 県内5地区で現地適応性試験を行った結果、果実品質の評価が高く、収量については「汐風」と同等であった(データ省略)。
6. 「研交6号」は、冬春期ハウス促成栽培用品種として有望である。

[成果の活用面・留意点]

1. 沖縄県野菜優良種苗取扱要領に則り、2014年度から県内農家へ種苗の供給を計画している。
2. 「研交6号」は、冬季最寒期に果実先端に過熟症状が発生することがある。

[具体的データ]



図1. 「研交6号」の果実

表1. 「研交6号」の雌花節率

品種名	雌花節率(%)		
	2009年 10月定植	2010年 2月定植	平均
汐風	25.3	17.2	21.3
研交6号	25.4	19.0	22.2

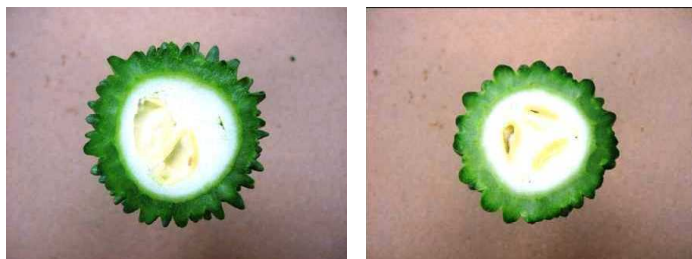


図2. 実突起の形状 (左:「汐風」、右:「研交6号」)

表2. 「研交6号」の果実特性

品種名	果実重 (g/果)	果長 (cm)	条状 <sup>1)</sup> 突起形状	こぶ状 <sup>1)</sup> 突起形状	果皮色 <sup>2)</sup>		
					L*	b*	(c*: 彩度)
汐風	298	26.0	1.1	1.2	32.7	10.9	13.4
研交6号	304	25.8	2.0	2.1	31.3	8.3	11.0
	ns	ns	**	**	*	**	**

- 1) 突起形状は果実肩部の突起を、1(鋭く尖る)~5(平坦)の5段階で評価した。  
 2) 果皮色は、色差計(L\*a\*b\*表色系)で測定を行い彩度で評価した。  
 b\*:小さい(青)→大きい(黄) C\*(彩度):小さい(濃い)→大きい(淡い)  
 3) U検定により、\*は5%水準、\*\*は1%水準で有意水準あり、nsは有意差なし。

表3. 「研交6号」の総収量とL品+2L品割合

品種名	総収量(kg/10a)		L品+2L品割合/全体(%)	
	2008年	2009年	2008年	2009年
汐風	4,676	6,151	90	81
研交6号	5,324	6,435	97	89

- 1) 2008年は定植日2008/10/20,収穫2008/12/19~2009/05/29の調査データ  
 2) 2009年は定植日2009/10/13,収穫2009/11/30~2010/05/31の調査データ

[その他]

課題ID : 1993農001、2012農012

研究課題名 : 特産野菜の品種育成 (継2000~2011年度)

次世代沖縄ブランド作物特産化推進事業 (2012~2017年度)

予算区分 : 県単、沖縄振興特別推進交付金

研究期間 : 2001~2012年度

研究担当者 : 宮城徳道、谷合直樹、坂本守章、川上光男

発表論文等 : 九州沖縄農業試験研究推進会議 (2013)